

# 長崎だより

長崎の情報を  
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、シーボルト記念館様から「シーボルトが見た200年前の長崎 シーボルト来日200周年記念事業」と題し寄稿していただきました。

## 長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



## お問い合わせ

### 株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号  
十八親和銀行本店内  
TEL095-828-8859



### 長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。



# シーボルトが見た200年前の長崎

## シーボルト来日200周年記念事業

シーボルト記念館



シーボルト著「日本」仏語版所収「長崎の港と湾の眺望」

### 1 シーボルト来日

#### 200周年にあたって

今から200年前の8月、1隻のオランダ船が長崎の港に入港しました。晴れわたる夏の空に樹々の緑が美しく輝き三方を山に囲まれた町はまるで円形劇場の様でした。そんな美しい光景に魅了された乗員の一人が、ドイツ出身の若い医師です。2023年は、フリッツ・フランツ・フォン・シーボルトが出島のオランダ商館医として来日して200周年の記念の年にあたります。長崎市では、これを機会にシーボルトの功績を改めて多くの方に知っていただくとともに、彼が紹介した長崎の魅力を再発見していただきたいと考えています。

### 2 シーボルトと長崎

なぜ、シーボルトが長崎に来ることになったのか、そこから話を進めていきたいと思います。彼は、1796年

に現在のドイツ南部にあるバイエルン州ヴェルツブルク市で生まれました。ロマンチック街道の起点にあたるとてもきれいな街で、領主司教の宮殿は世界文化遺産に登録されています。

シーボルト家は、祖父、父、叔父がそれぞれ大学の医学部の教授を務めていた医学者の一家で、シーボルトが2歳の時に父が亡くなりますが、母方の伯父に養育されシーボルト



ヴェルツブルク市の街並み





川原慶賀筆シーボルト肖像画  
(長崎歴史文化博物館蔵)

ト自身もヴュルツブルク大学の医学部に進みます。この時、父の友人だった教授の家に寄宿し、そこで鶏の胚の実験などを手伝い、博物学に興味を持ちました。

大学を卒業後、近くの町で開業しますが、博物学研究の道に進むため、叔父の紹介でオランダ東インド陸軍の軍医となりインドネシアのバタビア(現在のジャカルタ)へ赴任します。ここで、オランダ東インド政庁の総督に認められ、シーボルトは長崎へ派遣されます。この頃、ヨーロッパにおけるナポレオン戦争の影響により、オランダのアジア貿易は衰退していました。そこで日本との貿易

を再興するため、日本の総合的な調査をシーボルトが任されたのです。

シーボルトは出島に着任すると、長崎へ西洋医学を学びに来た医師たちに医学とともに植物学の講義も行います。

植物は薬草として有用なものが多くあり、当時の日本でも「本草学」として植物の研究が行われていました。シーボルトにとっても植物学の知識を得た日本人の協力を得ることでヨーロッパでは知られていない新種を発見できる可能性が大いにあった訳です。

シーボルトは、オランダ東インド政庁から多額の活動費を支給され、それまでオランダ商館員の憩いの場所であった庭園を整備し、1,000種以上の植物を栽培しました。

また、精力的に長崎近郊の自然の調査を行い、小瀬戸や千々、岩屋山、一本木、西山などへ弟子たちと出かけています。彼はその成果を活用して『日本植物誌』を出版します



シーボルト著『日本』所収「出島図」

が、この本では、138種の植物が紹介され、長崎の皆さんにもなじみの深いアジサイやビワ、ツバキなどの美しい図版が多数載っています。これら植物の中には新種として紹介された学術的にも価値の高いものもありますが、観賞用などの経済的に有用な植物であることが重要視されています。シーボルトは日本から戻った後、協会を設立しユリなどの観賞用植物の普及に力を入れました。



シーボルト他共著『日本植物誌』所収「アジサイ」(福岡県立図書館デジタルアーカイブ)

なお、長崎いけばな連盟の御協力によりシーボルト記念館と出島でシーボルトにゆかりのある植物を使いたいけばなを9月から11月まで展示する予定です。

彼は、郊外での調査の際には、植物のみならず魚なども採取しています。御存じのように長崎は海に囲まれ多くの魚が水揚げされています。例えば、春はタイ、夏はハモ、冬はトラフグなど全国的にも漁獲量が多い魚があり、長崎市では新鮮な魚を



シーボルト他共著「日本動物誌」所収「マダイ」  
(福岡県立図書館デジタルアーカイブ)

楽しめる「さししみシティ」として海産物の消費拡大に努めています。

今回の記念事業でも、長崎において馴染みのある魚をフランス刺繍で表現した作品展や野母崎地区でよく水揚げされる伊勢エビやタコをPRするイベントが開催されます。

魚と同様に鯨も長崎にはなじみの深い食材ですが、シーボルトは、捕鯨について調べ、長崎くんちで今年奉納を予定している「鯨の潮吹き」が著書『日本』の図版として掲載しています。

シーボルトが出版した『日本動物誌 魚類編』には、161葉に及ぶ美しい魚の図が描かれています。

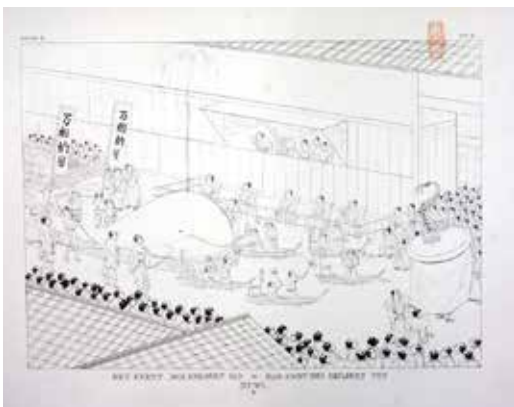
その大半の原画を描いたのが長崎の絵師、川原慶賀です。彼の作品は写実性に優れておりまだ写真機がないこの時代には大変貴重でした。特に魚は採取した後色彩が失われていくため、慶賀が描く魚図はとても貴重な情報だったのです。

慶賀の描いた作品を御紹介する企画展「シーボルトと川原慶賀」展が2023年8月10日から12月10日まで出島で開催されます。一番の見どころは、最近オランダで見つかった慶賀最大の作品である「長崎湾の出島の風景」屏風の複製品です。長崎港と町の様子が詳細に描かれており、見る人を惹きつけます。

### 3 鳴滝塾

シーボルトが西洋の自然科学を学ばせ、医学教育を行うために開いたのがいわゆる「鳴滝塾」です。

この鳴滝塾には、全国から西洋医学を学びに医師たちがやってきました。その中の一人、米沢出身の伊東昇迪しやうてきは、長崎での体験を日記に書き残しています。彼は、江戸で幕府の奥医師はぶげんせき土生玄碩のもとで眼科を学んだあと、シーボルトの江戸参府の帰路に同行し、出島や鳴滝塾に入りして医学を学びシーボルトの植物研究を手伝っていたことがわかります。日記には市中での診察や郊外での採薬、シーボルトの誕生日や娘イネの誕生など話題が豊富です。



シーボルト著「日本」所収「諏訪明神のお祭り」(福岡県立図書館デジタルアーカイブ)

そしてシーボルトと別れる際にもらった眼科器具は、今も残っています。また、長崎の人々の興味深い暮らしぶりや食生活、人々が夢中になる長崎くんちやお盆の際の墓所での灯籠の飾りつけも伝えています。

この鳴滝塾の建物模型が1996年にドイツ・ミュンヘンにある国立民族学博物館(現五大陸博物館)で見つかり、長崎市はこの複製品をシーボルト来日200周年記念事業の一環で製作しました。建物は、木造2階建てで一部が平屋となつて



鳴滝塾建物模型(複製)



シーボルト著『日本』所収「オランダ使節団の行列」

#### 4 新たな魅力の発見へ

おり平屋部分には床の間が造られています。これまでは、鳴滝塾舎の図とされる絵や幕末に撮影された写真が知られていましたが、この模型により詳しい鳴滝塾の様子に分かるようになることを期待しています。この複製品は、シーボルト記念館で開催する特別展で展示します。

さらには、シーボルトの業績を再評価すべくシンポジウムが出島メッセ長崎と長崎歴史文化博物館で開催されます。

幕末にオランダの協力により長崎で西洋医学の伝習を行った医学伝習所を起源に持つ長崎大病院は、長崎県と県内の病院が設立し

た「新・鳴滝塾」の事務局として長崎で初期研修をしようと考えている医学生や研修医のサポートをしています。

出島メッセ長崎において、長崎大学が大会事務局となって「シーボルト来日200周年記念第55回日本医学教育学会大会」を7月28日(金)・29日(土)に開催します。現代における医学教育の在り方が討論されます。

このような長崎の魅力をシーボルトの逸話を通して見ることで、新たな発見をしていただきたいと思えます。さまざまな場所や機会において事業を実施することにより多くの皆様にシーボルトの功績について理解を深め、長崎の歴史文化に対する意識を高めていただきたいとも考えております。ぜひ、長崎の町を歩いて、あなたのお気に入りを見つけてみてください。

ところで、昨年9月に西九州新幹線が開通しましたが、そのルートはシーボルトが江戸参府で通った長崎街道と重なります。新幹線は、長崎から諫早・大村・嬉野・武雄温泉を30分程度で結んでいますが、シーボルトは3日かけて通過しました。道中の景色や嬉野の茶畑、武雄の温泉などを観察しています。長崎街道は、砂糖の文化を伝えたシュガーロードとして日本遺産に認定されていますが、シーボルトも休憩のため立ち寄ったお寺でお菓子のふるまいを受けています。



シーボルト来日200周年記念事業ロゴマーク



シーボルト来日200周年に関する特集記事を長崎市公式観光サイトに掲載しています。  
travelnagasaki  
<https://www.at-nagasaki.jp>